

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 084

(2025/26年度 USDA米国農務省 7月11日発表)

【世界のコメの生産/貿易はどうなっているのか、日本の位置は?】

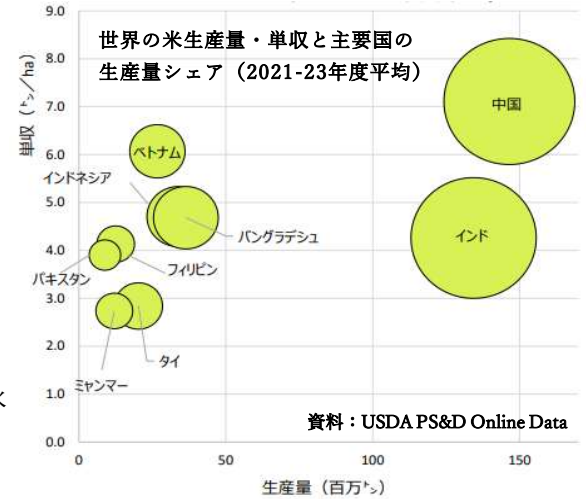
今年3月以降、日本では「令和の米騒動」が勃発し5キ2千円だった価格が4千円を超えるレベルまで高騰しているが、世界的に見たコメの世界はどう成っているのか、日本のコメ不足/価格高騰の原因はどこに存在しているのか見てみたい。

① **世界のコメ生産国は中国/インドの二カ国が飛び抜けた存在で両国合わせて3億ト近く、シェアは約6割に迫っている。**具体的には23年度世界生産量は5.2億ト、うち中国145/インド138百トン、それに次いでバングラディッシュ/インドネシアが約3千万ト、タイ/ベトナムが2千万トクラスで並び、生産の9割がアジアに集中していることから、ある意味かなりローカル色の強い穀物である。単収は国別にかなり大きな開きがあり、中国が約7ト/ha、タイ/ミャンマーが3ト弱/haと倍以上の開きがある。(右記の表参照)

② **コメ貿易量は生産の約1/10程度、その約9割はアジア地域内で完結。**

コメの生産量に大して貿易量は57百万トと約1割強、最大の輸出国はインド14百万ト、次いでタイベトナムが1千万ト程度で並んでいる。逆に輸入国はインドネシア/フィリピン/中東450万トクラス。その後インドは好調で25年には生産151/輸出25百万トと存在感を高め、世界生産は5.4億トまで拡大。

③ **日本のコメ生産は縮小の一途、耕作放棄地も拡大。**日本のコメ生産/消費は現在700万ト程度と推測されるが世界的に見ればこれは些細なレベル。しかし国の食糧安全保障で言えば現状は危うい。現在のコメ作付け面積は農水によれば124万ha(15年比16万ha減少)また農家年齢は70歳⇒実質的生産力の減退が今のコメ騒動の背景? 今後世界市場の中でどう考えるかが大きな課題。



1. 世界穀物需要の概要 (大豆を除く)

① 生産量:	2,897百万ト (前年比1.7%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	2,913百万ト (前年比1.2%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
③ 貿易量:	513百万ト (前年比2.6%)	増↑、前月比0.4%	減↓)

2. 小麦

① 生産量:	809百万ト (前年比1.1%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
② 消費量:	811百万ト (前年比0.6%)	増↑、前月比0.1%	増↑)
③ 輸出量:	213百万ト (前年比3.1%)	増↑、前月比0.6%	減↓)
④ 在庫量:	262百万ト (前年比0.8%)	減↓、前月比0.5%	減↓) / (在庫率32%) うち中国125百万ト、占有率48%
⑤ 価格:	\$5.48/Bu (前年\$5.72/Bu / 前月\$5.55/Bu)	と前月比\$0.07	下落。
⑥ 概況:	前月と比べた生産動向はEU/ロシア等で上方修正、逆にカナダ/ウクライナなどで下方修正された結果相殺され約8億トと変動なし。前年比では8百万ト増で市場最高見通しも変わらず。消費量も微増で需給バランスはとれている。輸出量は前年比3%増加し2億トの大台を維持し好調。在庫量は消費量が上回り微減。価格は北半球に於ける冬小麦収穫が順調なことから若干弱含んだ。		

3. とうもろこし

① 生産量:	1,264百万ト (前年比3.1%)	増↑、前月比0.2%	減↓)
② 消費量:	1,276百万ト (前年比1.5%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
③ 輸出量:	196百万ト (前年比1.7%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
④ 在庫量:	272百万ト (前年比4.3%)	減↓、前月比1.1%	減↓) / (在庫率21%) うち中国179百万ト、占有率66%
⑤ 価格:	\$4.32/Bu (前年\$4.11/Bu / 前月\$4.43/Bu)	と前月比\$0.11	下落。
⑥ 概況:	世界生産量は、米国の収穫面積が下方修正された為前月から約2百万ト減少したが前年比では約3%/約4千万ト増加し史上最高見通しは変わらず。消費量も順調に増加。輸出量は前年比約4百万ト増加し2億トに迫る勢い。在庫量は消費量が生産を上回る状態が続き前年比約13百万ト減少し、在庫率も21%と一昨年比で約5%減少。価格は米国の好天とブラジルの豊作見通しから下落。		

4. 大豆

① 生産量:	428百万ト (前年比1.3%)	増↑、前月比0.2%	増↑)
② 消費量:	425百万ト (前年比3.9%)	増↑、前月比0.2%	増↑)
③ 輸出量:	188百万ト (前年比3.8%)	増↑、前月比0.4%	減↓)
④ 在庫量:	126百万ト (前年比0.8%)	増↑、前月比0.6%	増↑) / (在庫率30%) うちBRA37/ARG25百万ト
⑤ 価格:	\$10.56/Bu (前年\$11.89/Bu / 前月\$10.57/Bu)	と前月比\$0.01	下落。
⑥ 概況:	世界生産量見通しは、米国の収穫面積減少から微減となったがブラジルはじめ南米主産国は好調で市場最高見通しは変わらず。消費量も前年比約4%/16百万ト増加し生産量にほぼ追いついて来ている。輸出量も中国の需要が強くなり前年比約4%増加し、2億トの大台も見え始めている。期末在庫量は1.3億トと前年比微増、在庫率はパイが大きくなった為1%減。価格は大きな変動なし。		

世界の穀物・大豆等の需給

2025年7月11日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給							
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量	
全穀物	2023/24	2,823	3,616	515	2,819	796	
	2024/25	2,847	3,644	500	2,880	764	
	2025/26	6月	2,901	3,666	514	2,913	753
	2025/26	7月	2,897	3,661	513	2,913	748
小麦	2023/24	792	1,067	222	797	269	
	2024/25	800	1,069	207	805	264	
	2025/26	6月	809	1,073	214	810	263
	2025/26	7月	809	1,072	213	811	262
粗粒穀物 (とうもろ こし等) 注1	2023/24	1,507	1,845	236	1,497	347	
	2024/25	1,506	1,853	231	1,540	313	
	2025/26	6月	1,551	1,865	238	1,562	302
	2025/26	7月	1,547	1,860	238	1,561	299
米	2023/24	524	704	57	525	180	
	2024/25	542	721	62	534	188	
	2025/26	6月	542	729	62	541	188
	2025/26	7月	541	729	62	542	187
大豆	2023/24	397	499	178	383	115	
	2024/25	422	537	181	412	125	
	2025/26	6月	427	551	188	424	127
	2025/26	7月	428	553	188	425	128

世界のとうもろこし需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	6月	285.04	1,265.98	187.48	1,275.79	195.82	275.24
	7月	284.18	1,263.66	187.76	1,275.76	195.81	272.08
アメリカ	6月	34.68	401.85	0.64	324.75	67.95	44.46
	7月	34.04	398.93	0.64	323.48	67.95	42.17
アルゼンチン	6月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
	7月	2.78	53.00	0.01	15.60	37.00	3.19
ブラジル	6月	5.99	131.00	1.60	93.00	43.00	2.59
	7月	7.99	131.00	1.60	94.00	43.00	3.59
EU	6月	6.33	60.00	20.50	77.80	3.00	6.03
	7月	6.33	60.00	20.50	77.80	3.00	6.03
日本	6月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
	7月	1.27	0.02	15.50	15.50	0.00	1.29
中国	6月	197.18	295.00	10.00	321.00	0.02	181.16
	7月	195.18	295.00	10.00	321.00	0.02	179.16
ロシア	6月	0.91	15.00	0.05	11.20	3.60	1.16
	7月	0.91	15.00	0.05	11.20	3.60	1.16
ウクライナ	6月	0.31	30.50	0.01	6.23	24.00	0.60
	7月	0.31	30.50	0.01	6.23	24.00	0.60

世界の大豆需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	6月	124.20	426.82	186.86	424.15	188.43	125.30
	7月	125.12	427.68	186.06	425.17	187.63	126.07
アメリカ	6月	9.53	118.12	0.54	70.76	49.40	8.03
	7月	9.53	117.98	0.54	72.12	47.49	8.44
アルゼンチン	6月	24.75	48.50	7.20	50.50	4.50	25.45
	7月	24.75	48.50	7.20	50.50	5.00	24.95
ブラジル	6月	33.44	175.00	0.15	62.30	112.00	34.29
	7月	36.11	175.00	0.15	62.30	112.00	36.96
中国	6月	44.98	21.00	112.00	133.00	0.10	44.88
	7月	43.48	21.00	112.00	133.00	0.10	43.38
EU	6月	1.88	2.95	14.30	16.82	0.30	2.01
	7月	1.88	2.95	14.30	16.82	0.30	2.01

世界の小麦需給							
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量	
世界計	6月	263.98	808.59	210.93	809.80	214.33	262.76
	7月	263.59	808.55	208.84	810.62	213.06	261.52
アメリカ	6月	22.90	52.28	3.27	31.54	22.45	24.45
	7月	23.15	52.49	3.27	31.54	23.13	24.23
アルゼンチン	6月	4.94	20.00	0.01	7.30	13.00	4.65
	7月	4.94	20.00	0.01	7.30	13.00	4.65
オーストラリア	6月	4.22	31.00	0.20	8.10	23.00	4.32
	7月	4.25	31.00	0.20	8.10	23.00	4.35
カナダ	6月	4.09	36.00	0.55	9.25	27.00	4.39
	7月	3.64	35.00	0.60	8.75	27.00	3.49
EU	6月	12.36	136.55	9.50	111.00	34.50	12.91
	7月	12.36	137.25	6.50	111.00	32.50	12.61
中国	6月	127.60	142.00	6.00	150.00	1.00	124.60
	7月	127.60	142.00	6.00	150.00	1.00	124.60
インド	6月	12.00	117.51	0.25	113.00	0.25	16.51
	7月	12.00	117.51	0.25	112.51	0.25	17.00
ロシア	6月	10.09	83.00	0.30	39.00	45.00	9.39
	7月	10.59	83.50	0.30	39.00	46.00	9.39
ウクライナ	6月	1.49	23.00	0.10	6.60	16.50	1.49
	7月	1.59	22.00	0.10	6.60	15.50	1.59

脚注1：粗粒穀物とはとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界の穀物輸出を牽引するとうもろこし生産拡大と食肉需要の動向(7)

① **世界屈指の穀物生産大国であるロシア/ウクライナ…** このシリーズ(5)(6)では穀物の大量消費国であり14億人の人口を抱える中国/インドについて述べたが、今月は穀物生産国サイドとして重要な位置を占めるロシア/ウクライナの両国の生産量/輸出量の推移について述べたい。この両国は1992年まではソビエト連邦下にあり北緯50-55度線上に連なる「黒土地帯」(チェルノーゼム)を共有する世界的な穀倉地帯である。国別特徴としては、ロシア⇒小麦生産を主体に2022年は1.6億ト、ウクライナ⇒とうもろこし生産を主体にロシア侵攻前2021年には0.8億ト強の穀物生産を誇る**世界屈指の穀物大国**である。

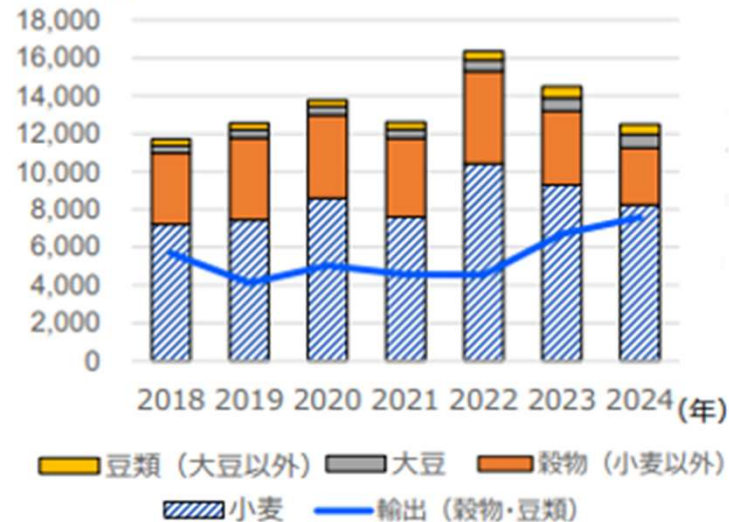
② **ロシアの穀物生産量は急拡大、世界最大の小麦輸出国に…** [表1]はロシアの2018-24年穀物生産/輸出量推移を表しているが、2018-22年は穀物全体では1.2⇒1.6億トと0.4億トの生産量を拡大、**00年0.6億トから見れば1億トの急拡大**である。歴史的に見ればロシアは1990年台初頭までは、**恒常的な小麦/とうもろこしの輸入大国**(年30-45百万ト)であり穀物市場の波乱要因であったが、2000年以降農業組織再編/大規模化等により急速に生産量拡大、小麦生産量は23年には9千万トを超え、輸出は**56百万トと世界最大の輸出国に変貌**した。ロシア産小麦は気候条件等から品質/蛋白含量も低く、ある意味コーンの代用として国内消費の約4割は飼料用に利用されている。

③ **ウクライナは世界有数の穀物生産国、ロシア侵攻により約35%減少…** [表2]は2021-25年までのウクライナの穀物生産量と輸出数量推移を表しているが、22年2月のロシア侵攻によりその生産量は大きく減少全体では21/22年**84百万ト⇒24/25年55百万ト**と約35%減少。品目別には小麦32⇒22百万ト、とうもろこし42⇒30百万ト減少し大きなダメージを受けている。輸出数量は23年8月からの「黒海臨時回廊」によって輸出ルートが確保され、**5千万ト⇒4千万ト(小麦16/コーン24百万ト)**と約20%/約1千万ト程度の減少に押さえている。総括すると、**両国の穀物生産量は2.4億ト**にのぼり世界のシェアは10%近く/米国5億トの約半分、ここの作況と政治状況は世界穀物需給と穀物市場それに**海上物流に大きな変動**を与えるインパクトがあり目を離せない。

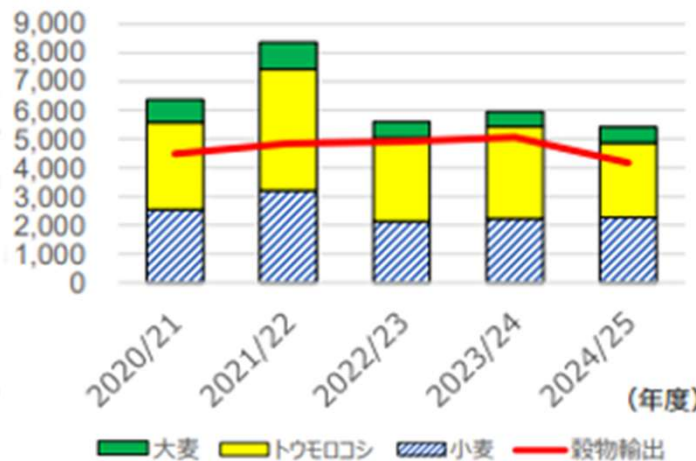
④ **ロシア/ウクライナのヒマワリ油生産/輸出量は世界最大…** [表3]はロシア/ウクライナのヒマワリ油輸出量推移であるが、この世界に於いてこの両国の存在は飛び抜けている。世界の23/24年度植物油生産量は2.3億トうちパーム油82/大豆油62百万トで圧倒的であるが、次に菜種油31/**ヒマワリ油23百万ト**と続いている。ヒマワリ油の国別生産量は**ロシア7.8/ウクライナ6.3百万ト**と**シェア約6割**。輸出量は全体で14百万ト、うちロシア5.2/ウクライナ6.1百万トと**シェア約8割と圧倒的**。この北米原産でインデアンが栽培していたヒマワリは流転し両国に根付いたが、両国にとっては外貨獲得の重要な産物である。輸出先は主にEU、用途はリノール酸70%を含みマーガリン/サラダオイル、それに化粧品などにも使用。因みにヒマワリはウクライナの「国花」であるが、**ソフィア・ローレン主演の映画「ヒマワリ」**に映し出される見渡す限りのヒマワリ畑はウクライナ・ヘルソン州が舞台とされる。(続く)

【表1】

単位:万ト ロシア穀物・豆類の生産量と輸出量



【表2】 ウクライナ穀物生産量と輸出量



【表3】 ロシアとウクライナ植物油輸出量

